

幼稚園に於けるトータム式教育法

伊藤 堅造

幼稚園時代はトータム時代に似てゐる。それは此の時代の子供が、彼のトータム的な情調の高い童話に如何に興味の耳を傾けるかの一事を以つて見てもよく分る事である。故に私はトータム式と稱する一つの教育法を工夫したので、今それを茲に公けにし幼稚園教育の参考に供したいと思ふのである。

此の教育法の目的は、自治的に且つ自然的に、幼児期の子供に共同生活の精神を養成せしむるにある。

實際の方法としては、先づ一つの幼稚園の幼児を幾つかの組に分つのである。そして其組は各々

異つた動物の名で呼ぶのである。私の幼稚園には五十餘名の幼児があるので、此れを五組に分けることにし、羊と犬と兎と鳩と雀の五種の動物を撰んで、組の名としたのである。成るべく子供に親みのあるもので、成るべく教育的に意味のあるものと思ひ其五種を撰んだのである。

然らば如何にして其組を分けるかと云ふに、私は幼児の一人々々の胸に附けるトータム徽章を作つた。そして毎朝幼稚園が始まる前にそれを幼児に與へて胸に附けさせるのである。其時どの徽章がどの子供に當らうとかまはず、手當り次第の徽章を來る子供、來る子供に渡してやる。子供は貴

つた徽章を自分の胸に付け、同じ徽章を付けてゐる者を互ひに探し合ふ。そして同じ徽章の者同士は必ず一所に寄り集まるのである。のみならず、或る組の者は共に手と手とつなぎ合ふて遊戯をなし或る組の者は列をなして行進活動を始める。胸にトートム徽章を付けてやつたばかりに、斯くの如く極めて自然に組々が出来、又各組の共同活動が始まるのである。

組には一本づゝトートム旗がある。其旗には胸の徽章と全く同じトートムの繪がある。色彩も徽章と同じであるから直ちに見分けがつく。此の旗の外に組には一個づゝの笛がある。其笛の音は組々で皆少しづゝ異つてゐる、此れは組の集合の合圖に用ゐるもので、山や川に遊びに出た場合などは特に必要なものである。又各々音を異にしてゐる所から聴覺練習にも用ゐることが出来る。

さて、此の旗と笛とは其れを授けるには簡單な

式がある。旗と笛とは組で最も大切なものとされてゐるのであるから、先生の方でよく考へて、特に組の中から或る者を撰んで旗を持たせることになる。それ故、式をなして組に授けることになるのである。

私の幼稚園では一番最初の時間中に此の式を行ふのである。旗と笛を授ける前には、それを持つ者の責任や義務に就いてよく全體に云ひ聞かせて置く、旗は大切に取扱ふべき事、旗をもつ者は其組の者をよく可愛がつてやる事、若し悪い事をするやうな者があれば、しないやうに教へてやる事などよく云ひ聞かせて置くのである。それから各組の中から一人づゝ呼び出して旗と笛とを授ける。其後で全體起立して次ぎの如き歌を歌ふのである。

(1) ひつじと犬と

うさぎとはとと

すゞめのくみが

出来たよ出来た。

(2) みんなそろつて 今日も一日

なかよく一緒に 遊びませうよ

(3) 先生のことば よく／＼聞いて

よい子で一緒に 遊びませうよ。

此の歌が濟めば、今度は組々で何か一つづゝ遊戯をする。此れで式は終るのであるが、旗と笛とは一日中子供自身の管理にまかせて置くのである。

最終の時間が来ると胸の徽章をはずし先生の手に戻し、旗も笛も皆返すのである。それで其日の組はなくなり、翌日又新しき組が出来ることになる。

組は一日々々で解散するのであるが、そこには原始的な意味が含まれてゐる。幼児期の精神發達から見て、斯る組織は必ず一時的でなければならぬ。

以上はトータル式教育法の形式的方面である

が、其の内容としても又色々考へる事が出来るであらう。併しそれを茲に一々述べる必要もないと思ふ。要するに此方法を出来る丈け幼稚園に於ける子供の生活に利用して幼児の共同活動を促し、そして共同の精神を養成するやうにとめるならよいのである。例へば一つの組の者が共同して積木を以て一つの家を造つたり、同じ組の者同士が共同して砂場にトンネルをつくり、汽車を走らせ、山を築き池を掘るなど、斯る共同作業は幾らでも見出す事が出来るのであるから、斯る共同作業を營みつゝ子供が共同の美しい精神を實際の活動のうちに、又自分でそれを學ぶやうにするのである。園藝場のある幼稚園では組々の畑を定め、そこにトータムの札を建て、組々で花に水をやること、種子を播くことなとさせるも亦甚だ面白いことである。

一つの組の各自が協同することだけでなしに、

全體の組が協同することも亦甚だ大切なことであるから、それにも色々方法を考へなければならぬ。各組から一人二人づつの子供が出て同じ遊戯をするとか、合同で一枚の繪を書くとか、又は運動場で各組が一緒になつて競争をするなどは皆全體の組の間に協同の精神を養ふ方法となる。我々が實際に當つてゐると色々の面白い工夫が出来て來るのであるから、それらの細かい方法を一々茲に述べる必要もないのである。

兎に角、トータル式教育法は其利用の範圍が決して狭くないのであつて、子供の幼稚園生活の全部にそれを活用して行くならば其効果は豫想外に大なるものである事を信するのである。又これによつて幼稚園教育の價値を鮮明にし、幼稚園に對する從來の誤解を一掃する事ともなるであらう。

私が此れを試みるに至つてから日も未だ極めて淺いのであるが、其れに對して子供の興味の意味

にも大なるには私自身も驚いたのである。手のつけやうもないやうな子供がそれによつて漸次良くなつて行く有様を見た私は將來に此の教育法の更らに更らに大なる効果を豫想せざるを得ない。

それ故今私は此れを茲に公けにし、尙一般の研究に委ねたいと思ふのである。これを一つの幼稚園で試みてゐるよりも、若し多くの幼稚園で試みられるなら、其れを一層有効なものとなす事が出來ると思ふからである。

旗や徽章や其他の用具は一般の使用に供する爲めに、營業者の方に交渉中であるから、いづれ近い内に一覽を乞ふことが出來るやうになるであらう。(大正十五年三月二十八日)